フィリピンに淡水化装置

ワイズ社が進出本格化

離島の飲料水確保担う

海水を真水に浄化する海水淡水化装置を開発・販売するワイズグローバルビジョン（うるま市、大嶺光雄会長）が、フィリピン進出を本格化させている。業務提携する段ボール製造のカネパッケージ（埼玉）のフィリピン工場で海水淡水化装置の委託製造・販売を4月から開始。小型装置を売り出すほか、大型装置は飲料水の販売用としてフィリピン国内に設置する。（政経部・照屋剛志）

トランク型の海水淡水化装置を開発した大嶺光雄会長＝18日、うるま市・ワイズグローバルビジョン

ワイズは2012年にバッテリー式の小型海水淡水化装置を開発。海水をナノレベルの濾過膜に高気圧で通し、真水をしみ出させる「逆浸透膜」でナトリウムイオンだけでなく、ウイルスや病原菌も除去できる。小型、軽量、低価格を売りに船舶や養殖場などを中心に販売してきた。

4月にはトランク型で重さ25キロの持ち運び用も開発した。価格は従来の半額程度の60万円で、1時間に40リットルの飲料水を生成できる。

カネパッケージが、13年に台風で甚大な被害を受けたフィリピンにワイズの浄水器を寄贈したことがきっかけで、ワイズの製品が認知され、昨年から海水淡水化装置も輸出している。

フィリピンは人口3万人以下の島が千あり、社会インフラの整備が難しく、沿岸部や離島での飲料水確保が課題となっている。

需要を見込んだカネパッケージからの提案でフィリピンでの製造・販売に乗り出した。フィリピン国内にあるカネパッケージの梱包材製造工場の空きスペースを活用し、1時間で海水から30リットル、淡水からだと60リットルの飲料水を生成できる小型装置を製造。初年度は600台の生産を目指している。

大型装置は1時間に約1トンを生成可能。本年度はフィリピン国内4カ所に設置して、飲料水を販売する。フィリピンへの本格進出を受け、同社は4月にうるま市の国際物流拠点産業集積地域に移転。生産能力を従来の10倍となる年間600台に拡大した。

同社はANA貨物ハブを活用して、ベトナムやパプアニューギニアにも海水淡水化装置を輸出している。大嶺会長は「日本品質だが、低価格の製品づくりを心掛けてきた。水の確保に困っている地域に貢献していきたい」と意気込んだ。

140